

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	19109007	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	変形性関節症の病因解明・治療標的分子同定のための統合研究：ROADプロジェクト	研究代表者 (所属・職)	中村 耕三（東京大学・医学部附属病院・教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A
	A
	B
	B
	C
	C
(意見等)	
<p>本研究を構成するテーマの1) 軟骨変性制御分子の分子生物学的研究には着実な進展が見られ、特に HIF2A/NF-κBシグナルの関与から、内軟骨性骨化と軟骨変性との関連を明らかにしたことは今後の治療法開発に繋がるものと期待され、高く評価する。2) 変形性関節症重度評価システムの開発は野心的な研究テーマであるが、着実な成果が見られる。特に定量評価を可能とした KOACAD は3) 遺伝・環境因子探索などの疫学研究に用いる事が期待でき、当初目標を達成している。現時点では3) 遺伝・環境因子の探索研究（ヒトゲノム研究）については他と比較してやや進展の遅れを感じるが、候補遺伝子の発見、KOACAD の使用による対象の精度向上により今後の発展が期待できる。全体として十分に当初の目標を達成していると判断される。</p>	

【平成24年度 検証結果】

検証結果	<p>本研究は変形性膝関節症の統合研究で3つのテーマからなる。1) 軟骨変性制御分子のスクリーニングと分子ネットワークの解明では、有望な治療標的分子が同定された。今後の治療法開発に繋がると期待され、高く評価できる。2) 変形性関節症重症度評価システムの開発では、定量評価を可能にした KOACAD によって大規模観察研究での成果が見られ、当初目的を達成している。3) 遺伝・環境因子の網羅的・系統的探索（ヒトゲノム疫学研究）では、疾患感受性 SNP の解明が遅れているが、KOACAD 使用による評価精度の向上により今後の発展が期待できる。全体として当初の目標を十分に達成していると判断できる。</p>
A	